屋子母セージマ古墳跡の発掘速報！

問 生涯学習課　電話（81）5151

1. はじめに

屋子母セージマ古墳跡

12月後半からスタートした屋子母セージマ古墳跡の発掘調査もいよいよ佳境をむかえました。最近は暖かい日が続き、県道からも目立つ場所に位置しているため、調査の見学に来られる方が増えてきています。

そこで今回は、「どういった仕事をしてるの？」、「何か凄いものは見つかっているの？」と言った発掘調査の内容についての質問に応えながら、現在までの調査成果を紹介します。

2. 発掘調査の内容

今回の発掘調査では、学芸員の前田一舟氏（沖縄県うるま市教育委員会）と竹中正巳教授（鹿児島女子短期大学）の協力のもと、セージマ古墳跡の造られた時期や構造を知るための調査を行っています。

まず、発掘調査場所の雑草や樹木を伐採し、セージマ古墳跡の全体の形がきれいな状態で光波測距儀と3Dカメラを導入して写真測量を行いました。写真測量で作った遺構の図面は、整理作業室に持ち帰ってトレース作業でなぞっていきます。次に、セージマ古墳跡周辺にトレンチを設定して掘り下げ作業を行いました。地表面から20～30㎝掘り下げたところで、細かい人骨片と歯、当時のものと考えられる陶磁器片が多く見つかっています。これらはすべて、取上げる前に見つかった場所を一つずつ記録する必要があるため、今回は、平板・レベルという工事現場でも使われる測量道具で記録を取りました。

チェーンソーを使った伐採

このように、発掘調査は「地面を掘って遺物・遺構を見つけて終わり」ではなく、①光波測距儀や平板・レベルでの測量作業、②見つけた遺物・遺構の検討、③専門家による陶磁器や人骨の選別指導、④集落の方や地域のことに詳しい人からの聞き取りなど、様々な仕事内容や専門家・地域の方の協力などを通して調査を進めていくのです。

光波測距儀と 3D カメラで作った図面

セージマ古墳跡の測量作業

出土した陶磁器・人骨の取上げ

前田先生による現地指導

竹中先生による人骨調査指導

3. セージマ古墳跡から見つかったもの

セージマ古墳跡周辺に設定したトレンチからは、人骨片や陶磁器片が出てきました。見つかった人骨片を専門家に観てもらったところ、右鎖骨・足指の部位であることが分かりました。また、歯は摩り減り具合から成年～老年だと考えられます。陶磁器片もトレンチから多く出土しており、こちらも専門家にみてもらったところ、タイ産や中国産の褐釉陶器など国外の製品であることが分かりました。

今後、セージマ古墳跡から出土した遺物は埋蔵文化財報告書の中で掲載されます。（※報告書が未刊のため、図面・写真の転載は固く禁じます。）

セージマ古墳跡出土の遺物
（左写真：タイ産　右写真：中国産）